第11回日本銀行金融研究所貨幣史研究会・東日本部会　(2003.3.27)

「平安末期貿易史の通説をめぐって ー平氏政権・日本金・宋銭ー 」<脇田報告に関するコメント>

山 内 晋 次　(大阪大学・COE特任教員)

はじめに

平安末期（１２ｃ半ばころ～）　＝ 輸入中国銭流通の出発点（日本貨幣史の重要画期のひとつ）

⇒この時期の中国銭（宋銭）流通とのかかわりで従来注目されている歴史状況

◇平氏政権による「積極的」・「画期的」外交・貿易政策実施という通説

◇「日宋貿易の最重要輸出品 ＝ 金」という通説的イメージ

⇒しかし、そもそも、

★平氏政権の外交・貿易をめぐる通説は実態に即しているか？

★日宋貿易における日本金の通説的イメージは妥当か？

１．平氏政権の外交・貿易政策

１）平氏政権の外交・貿易政策に関する通説

◇平氏政権（平清盛）による伝統的な対外方針の転換（積極的・開国的対外政策）→日宋貿易の独占支配・振興→貿易収入は荘園・知行国とならぶ政権の重要な財政基盤

(森克己 1948、林屋辰三郎 1955、島田次郎 1985、大山喬平 1975、石井進 1984・1993、高橋昌明 1999、上横手雅敬 2001 など)

cf. 村井章介 1999

1183 の福原遷都＝たんなる逃避行ではなく、海に密着し、対外関係や貿易を国家権力の基盤にしようとする「海洋国家」構想にもとづく (p. 45)

◇その根拠

・大輪田泊の修築とそこへの宋船の入港

・後白河上皇・高倉上皇・平清盛らの宋人引見

・宋の官庁との公文書の交換

・「日本商人」の渡宋開始

・音戸の瀬戸開削伝承などの瀬戸内海航路の整備

・厳島神の興隆

・大宰府およびその管内への強い影響力の行使　　など

２）通説に対するいくつかの疑問（山内晋次 2002）

◇「貿易収入＝政権の財政基盤」？

cf.『平家物語』巻１・吾身栄花

「日本秋津島は、纔に六十六箇国、平家知行の国卅余箇国、既に半国に超えたり。其外庄園・田畠いくらといふ数を知らず。綺羅充満して、堂上花の如し。軒騎群集して、門前市をなす。揚州の金・荊州の珠・呉郡の綾・蜀江の錦、七珍万宝一として闕たる事なし」

⇒しかし、

○唐物の優品は、当然、強大な権力を誇った平氏一門のもとにもっとも集中→たんに「平氏一門＝唐物の大口消費者」を示す文章、一門の華麗な消費生活の文学的な表現

○平氏政権は宋朝の市舶制度のような徹底した貿易管理にもとづく輸入税の徴収・専売制の整備や、鎌倉・室町期の御分唐船・寺社造営料唐船・遣明船のような貿易船の派遣などをおこなったか？

○福原（大輪田泊）への宋船入港（ただし少数？）＝政権絶頂期のごく一時的な状況、平氏政権滅亡後に福原に入港した宋商船の確実な記録はない？→福原での貿易の意義・量を過大評価すべきではない、福原（大輪田泊）は貿易センター博多にとってかわるほど貿易港として成熟せず急速に貿易港としての地位を失った（すくなくとも１３世紀後半までは博多が最大の対中国貿易港の位置を独占）

◇「平氏の大宰府支配＝貿易の独占支配企図」？

（清盛の大弐就任＜1158-60＞、頼盛の大弐就任・下向＜1166-68＞、鎮西武士との主従関係、多くの所領獲得）

⇒しかし、大宰府関係史料に確実な証拠があるか？

◇「12ｃ後半における「日本商人」の渡宋開始＝平氏政権の貿易振興の結果」？

⇒しかし、中国文献の「日本商人」＝博多に貿易拠点をおく中国人海商（博多綱首）（榎本涉 2001）

→平氏が博多綱首を通じて貿易を振興したともいえなくはないが、通説的素朴な理解は疑問

2．日本金の輸出

1）日宋貿易における日本金輸出の通説的イメージ

日本金の中国への大量流出（金安の日本から金高の宋へ、それの見返りとしての宋銭輸入）

→マルコ・ポーロの「黄金国ジパング」（「黄金宮殿」＝平泉金色堂）

（藤田豊八 1943、加藤繁 1926・1952、森克己 1948、三浦圭一 1993、五味文彦 1998 など）

cf.『詳説日本史』（山川出版社、1997）

「日本に渡来した宋の商人は博多に文物や薬品をたずさえてやってきて、かわりに金や水銀・真珠などの必要な産物を得て帰った。宋の商人がとくにのぞんだのは金であるが」（p. 68）

2）通説的イメージに対する疑問（山内晋次 2001）

◇「唐末以降、日本金が中国へ大量流入」？

⇒しかし、中国で日本金の流入が注目されるのは南宋以降では（南宋期における金の高騰）？

→唐末～北宋期も含めて超時代的に日本金の流出を過大評価

◇「南宋期における日本金の中国への大量流入」？

⇒しかし、流入量の過大評価では？

cf.『開慶四明続志』

「倭商毎歳大項博易、惟是倭板・硫黄、頗為国計之助、外此則有倭金、商人携帯、各不能数両」

◇マルコ・ポーロ『東方見聞録』の情報は大量流出の決定的証拠といえるか？

・「この国へは大陸から誰も行った者がない。商人でさえ訪れないから、豊富なこの黄金はかつて一度も国外に持ち出されなかった」（平凡社・東洋文庫本）

・「しかし大陸からあまりに離れているので、この島に向かう商人はほとんどおらず、そのため法外な量の金で溢れている」（岩波書店・中世仏語写本）

◇バラスト（底荷）による船の安定性確保の問題

⇒しかし、もし宋海商が唐物をすべて日本金に換えて（おそらくｋｇの単位）本国に帰航したとすれば、船のバランスが不安定で航行に支障あり？

cf. 韓国・新安沈船の 28ｔ（約 800 万枚の銅銭）

◇日宋貿易で日本側が支払う交易代価（輸出品）は当然金だけではない

⇒従来、金が過剰にクローズアップされる傾向にあり、その流出のイメージと実態との間に大きなズレ？　→米・硫黄・水銀・材木などの輸出品に関する綿密なケース・スタディーが必要

3．宋銭の流入

1）宋銭流入の理由・状況をめぐる諸説（井原今朝男 2001）

◇宋銭＝貿易決済通貨（12ｃ、平氏政権期が輸入のピーク）

（森克己 1975、滝沢武雄 1970、大山喬平 1984 など）

◇宋銭≠貿易決済通貨（輸入ピークは鎌倉期）

（小葉田淳 1943、大田由紀夫 1995、東野治之 1997、井原今朝男 2001 など）

⇒おそらく、宋銭流入は貿易決済の必要性からではない、輸入ピークも鎌倉期

⇒ただし、宋銭の流入・流通の本格的開始時期は 12ｃ半ばころからの平氏政権期にあり

2）平氏政権と宋銭流通の関係をめぐる諸説

◇平氏政権は宋銭流通を禁止＝通説

（森克己 1948、白川哲郎 1987 など）

◇平氏政権は宋銭流通を容認（公認）

（保立道久 1996、村井章介 1999、井原今朝男 2001＜宋銭出挙の広がり＞）

⇒1185 の平氏滅亡をはさんで、宋銭流通に関する政権の方針が「容認→禁止」と変化したという指摘は興味深い

→しかし、現在の史料状況で、「日本における銭貨の受け取り手の中心は平氏勢力であったと推断してもよい」（村井章介 1999）とまで言えるか？

⇒通説およびそれを批判する説ともに、「平氏政権による「積極的」・「開国的」外交・貿易政策」という通説を前提としているように思われるが、もしその前提が否定された場合にはどうなるか？

3）対南宋・元貿易における「日本金と中国銅銭の交換」の過大評価の傾向は？

cf.『元史』巻 95・日本伝

「（至元）十四年（1277）、日本遣商人持金来易銅銭、許之」

⇒上記の日宋貿易における日本金の通説的イメージが多大に影響？

→『元史』の記事も含めて、冷静な眼での再評価が必要（中国銅銭と交換された日本産品は？）

おわりに

◇平氏政権の外交・貿易策に関する再検討に際して、史料の限界（通説の確証はないが、それを否定する確実な材料もみあたらず）をどう突破するか？

◇日宋貿易における日本金の問題に関して、中国側の金の自家生産・輸入・流通状況をさらに緻密に探る必要（東南アジアからの金流入なども視野に入れて）

◆参照文献◆

石井　進 1984　「平氏政権」（『日本歴史大系』1、山川出版社）

石井　進 1993　「十二―十三世紀の日本―古代から中世へ―」（『岩波書店講座日本通史』7、岩波書店）

井原今朝男 2001　「宋銭輸入の歴史的意義―估価法と銭貨出挙の発達―」（池享編『【もの】から見る日本史　銭貨―全近代日本の貨幣と国家―』、青木書店）

上横手雅敬 2001　「平氏の財力」（同『源平争乱と平家物語』、角川書店）

榎本　渉　2001　「宋代の「日本商人」の再検討」（『史学雑誌』110-2）

大田由紀夫 1995　「十二～十五世紀初頭東アジアにおける銅銭の流布」（『社会経済史学』61-2）

大山喬平 1975　「平氏政権と大輪田泊」（『兵庫県史』2、兵庫県）

加藤　繁 1926　『唐宋時代に於ける金銀の研究』（東洋文庫）

加藤　繁 1952　「日宋の金銀価格及び其の貿易について」（同『支那経済史考證』下、東洋文庫）

小葉田　淳 1943　『改訂増補日本貨幣流通史』（刀江書院）

五味文彦 1998　「日宋貿易の社会構造」（今井林太郎先生喜寿記念論文集刊行会編『国史学論集』、同会）

島田次郎 1985　「平氏政権の対宋貿易の歴史的前提とその展開」（同『日本中世の領主制と村落』上、吉川弘文館）

白川哲郎 1987　「平氏による検非違使庁掌握について」（『日本史研究』298）

高橋昌明 1999　「福原の夢　清盛と対外交易」（歴史資料ネットワーク編『歴史のなかの神戸と平家 地域再生へのメッセージ』、神戸新聞総合出版センター）

滝沢武雄 1970　「平安後期の貨幣について」（『史観』82）

東野治之 1997　『貨幣の日本史』（朝日新聞社）

林屋辰三郎 1955　『古代国家の解体』（東京大学出版会）

藤田豊八 1943　「宋代輸入の日本貨につきて」（同『東西交渉史の研究　南海篇』、荻原星文館）

保立道久 1996　「中世前期の新制と估価法」（『歴史学研究』687）

三浦圭一 1993　「十世紀―十三世紀の東アジア」（同『日本中世の地域と社会』、思文閣出版）

村井章介 1999　『中世日本の内と外』（筑摩書房）

森　克己 1948　『日宋貿易の研究』（国立書院）

森　克己 1975　「宋銅銭の我が国流入の端緒」（同『続々日宋貿易の研究』、国書刊行会）

山内晋次 2001　「平安期日本の対外交流と中国海商」（『日本史研究』464）

山内晋次 2002　「日宋貿易の展開」（加藤友康編『日本の時代史 6 摂関政治と王朝文化』、吉川弘文館）